

平成23年度 心理相談センター活動実績

本 田 糸津華

Shizuka HONDA

本年度に行ったセンターの諸活動について、以下報告する。

1. 年報発行

昨年度に第7巻を発行し、本年度は第8巻発行予定とした。

2. 運営委員会開催

1) 運営委員

センターを支援しているのが運営委員である。本年度は4回開催された。運営委員は次のとおり、本学教職員の7名で構成されている。

運営委員長 塩山 二郎（センター長）

運営委員 谷川 宮次（研究科長）

吉田 弘司（研究科教授）

森 修也（同上）

大谷 哲朗（同上）

深田 成子（同上）

石井 眞治（同上）

平松 立美（事務局長）

2) 運営委員会開催と議題等

第1回 心理相談センター運営委員会

日時；平成23年5月2日（月）

報告事項

- 1 平成22年度の活動実績について
- 2 成22年度決算報告について
- 3 心理相談センター年報第6号（配布）

審議事項

- 1 東日本大震災被災者支援活動について
- 2 平成23年度心理相談センター事業計画について
- 3 センター主催研修会の開催について
- 4 セミナー予算について
- 5 その他

第2回 心理相談センター運営委員会

日時；平成23年10月26日（水）

審議事項

- 1 平成24年度心理相談センター予算について
- 2 その他

第3回 心理相談センター運営委員会

日時；平成23年1月12日（木）

持回り審議

- 1 平成23年度対人関係セミナー企画案について

第4回 心理相談センター運営委員会

日時；平成24年3月15日（木）

報告事項

- 1 第6回対人関係セミナーについて

審議事項

- 1 平成24年度特別研修相談員受け入れについて
- 2 臨床指導員、相談員、研修相談員の委嘱について
- 3 その他

3. 相談実績

① センターの相談活動について

表1 平成23年度 センター相談のべ件数

| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 計 |
|-------------|----|----|----|----|----|----|-----|-----|-----|----|----|----|-----|
| 初回面接 | 2 | 0 | 3 | 3 | 1 | 1 | 1 | 2 | 2 | 0 | 2 | 1 | 18 |
| 継続面接 | 26 | 34 | 27 | 50 | 35 | 33 | 43 | 44 | 34 | 25 | 26 | 38 | 415 |
| 遊戯療法 | 0 | 0 | 0 | 1 | 2 | 2 | 2 | 1 | 2 | 2 | 0 | 2 | 14 |
| 保護者面接 | 2 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 | 0 | 1 | 1 | 0 | 2 | 2 | 10 |
| 心理検査A | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 | 0 | 0 | 3 |
| 心理検査B | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 | 0 | 0 | 3 |
| 心理検査C | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 | 1 | 0 | 1 | 0 | 0 | 1 | 5 |
| 保護者並行面接 | 3 | 4 | 6 | 6 | 5 | 9 | 7 | 8 | 13 | 3 | 5 | 7 | 76 |
| 心理検査及び保護者面接 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 計 | 35 | 38 | 36 | 60 | 44 | 48 | 54 | 56 | 55 | 32 | 35 | 51 | 544 |

センターでの相談業務について、平成23年4月から平成24年3月までに行われた相談件数の集計を行った。本年度の総相談数は544件であり、1ヵ月平均、約45件を行っていることになる。センターでの面接区分は、初回面接、継続面接、遊戯療法、保護者との面接、心理検査A、心理検査B、心理検査C、保護者並行面接、心理検査及び保護者面接に分類される（詳細はセンター規程を参照のこと）。表1に相談件数を示す。なお、本年度は心理検査及び保護者面接の実施はなかった。

相談内容、来談者年齢構成について表2、表3に示す。相談内容と来談者年齢層が多岐にわたっており、柔軟かつ多様な対応を必要とされた。

平成23年度は、臨床心理学専攻2年生、研究生に一年間を任期とする研修相談員の委嘱をした。さらに1年生には平成23年10月1日から平成24年3月31日までを任期とする研修相談員の委嘱をし、授業「臨床心理実習」の一環としてセンターの相談に従事した。また研修相談員は、個々で経験豊かな臨床心理士から相談に関する個別指導（スーパービジョン）を受けた。

表2 相談内容別相談件数

| 主 訴 | 件 数 |
|---------|-----|
| 不登校、いじめ | 2 |
| 引きこもり | 0 |
| 非行 | 0 |
| 緘黙 | 0 |
| 子育て、発達 | 10 |
| 家族 | 7 |
| 性格 | 3 |
| 対人関係 | 2 |
| 神経症 | 3 |
| 精神疾患 | 15 |
| ターミナル | 0 |
| 職場関係 | 5 |
| その他 | 4 |
| 計 | 51 |

表3 利用者の年齢層

| 年 齢 | 人 数 |
|-------|-----|
| 10歳未満 | 2 |
| 10代 | 3 |
| 20代 | 8 |
| 30代 | 11 |
| 40代 | 14 |
| 50代 | 7 |
| 60代 | 4 |
| 70代 | 1 |
| 不明 | 1 |
| 計 | 51 |

② 比治山中学高等学校の相談件数（実施期間平成23年4月～平成24年3月）

表4 比治山女子中学高等学校サポートルーム開設利用者

| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 計 |
|----|----|----|----|----|----|----|-----|-----|-----|----|----|----|----|
| 回数 | 5 | 7 | 13 | 4 | 2 | 7 | 3 | 12 | 5 | 5 | 9 | 2 | 74 |

開設のべ回数：74回 開設のべ時間：181時間 相談活動回数：7回 相談活動人数：5人

表5 相談活動利用者

| 学年 | 中1 | 中2 | 中3 |
|----|----|----|----|
| 人数 | 2 | 2 | 1 |

比治山女子中学高等学校のサポートルームは、本センターの学外実習施設であり、学生がスクールカウンセリングの実際を学ぶ場として機能している。この相談室の利用対象は不登校傾向の生徒および保健室登校生である。相談業務は、本センターの研修相談員（4月～大学院2年生、11月～大学院1年生）が担当した。平成23年度の利用者数は表4・5のとおりである。

4. ケース・カンファレンスの開催

研修相談員が担当する相談ケースの検討、報告する場として、センターの臨床指導員、相談員、大学院生、

研究生を対象にケース・カンファレンスを毎週開催した。平成23年度の開催数は、合計37回であった。

5. 研修会（セミナー）の開催

平成24年3月10日（土）に対人関係セミナーを開催した。川畑直人先生（京都文教大学臨床心理学部教授）を講師にお迎えし、午前の部「統合失調症者に対する精神分析的な心理療法の可能性について—対人関係論の視点から—」と題した講演を行い、午後の部は事例検討会を行った。

臨床心理士、大学院生、医療・保健・福祉・教育・司法矯正等の領域で対人援助職、指導職に従事する50名が参加した。有資格者の学習の機会を提供できたことは心理臨床能力の維持、向上を図り地域社会への貢献へ繋がる有意義なものとなった。

臨床心理士教育・研修規程別項第2条(4)「日本臨床心理士資格認定協会の認める臨床心理学に関するワークショップまたは研修会」に申請し承認を得た。

6. 問題点と課題

本年度は前年度に比べ、相談件数は前年と比べるとほぼ横ばいかやや下回る件数となっている。原因のひとつとしては、今まで保護者面接と子どもの心理療法（面接・遊戯療法）は別枠で換算していたが、今年度から並行面接として親子で1つのケースとしたためと思われる。しかし、ケース数自体が若干減少している影響も否めず、今後適切な事例を獲得していくための工夫が必要かもしれない。

子どもの心理療法はケース数が少ない。今以上に子どもの利用の要望を受け入れる体制を作り、連携を行うこと、さらに遊戯療法の指導・訓練についてのガイダンスが不足していると考えられ、力をいれていく必要がある。